

平成26年度事業報告

公益財団法人 阿蘇地域振興デザインセンター

平成26年度 事業報告

I. 総括的事項

財団法人時の4つの基本方針「地域振興」「観光振興」「環境・景観保全」「情報発信」から、従来の事業内容を公益財団に移行しての新中長期計画「豊かな自然による世界ブランドの確立」「地域の元気再生による地域力向上」「広域連携による競争力のある観光地づくり」をより意識し、シフトさせていきました。

公益事業1に位置づけられている阿蘇ジオパーク推進事業はかね取り組んできた世界申請が昨年9月に成就し、認定審査時に指摘された改善点を含め、阿蘇世界ジオパークを今後に向け安定的に発展、発信させていくための次段階の取り組みが始まりました。

また同じく公益事業1にあった阿蘇環境デザイン策定事業は初期の目的を達し、26年度にて当財団の事業としては終了しました。

世界文化遺産へ向けた取り組みとして、重要文化的景観の地域資源調査、そして地域住民の方々へ地域資源の価値と有用性に気づいていただく地域会合を繰り返し、関係市町村が景観行政団体へ移行するためのベースとなる地域の景観条例づくりへ資することができました。

今後はこれまでとり組んできた当該調査の成果を地域の実益に結びつけていくために、文化的景観をツーリズムや地域加工品に結びつける方策が考えられます。世界農業遺産と世界ジオパークの認定、そして世界文化遺産へ向けた積極的な取り組みが三位一体となり、農畜産文化を下地とする地域文化を具体の地財、商材へ結びつけるための一年となりました。「観光+農業」の国の施策とも重なります。

公益事業3とする観光庁新観光圏関連事業の遂行も2年が過ぎ、指定の整備地区を中心に、地域の住民の方々や地元事業者を巻き込んだ取り組みが安定的に推移してきました。千年の草原を活用した阿蘇地域活性化の総合戦略で案出されたプログラムもこうした施策に合致するよう配慮され、地域の個別事業の力が散逸しない方向を意図してきました。

なかでも外国人旅行者の増加に備え、各種案内を多言語で提供することに注力してきました。民間事業者もインターネット環境の無料提供を進めていますが、情報の多層化により、日本人、外国人ともに利便性が向上してきています。

Ⅱ. 評議員会・理事会・幹事会関係の報告

1. 評議員会

法律並びに定款に定められた重要な事項を決定する評議員会を1回開催しました。

1) 第1回評議員会

- ①開催日 平成26年 6月 3日(金)
- ②場 所 ホテルサンクラウン大阿蘇
- ③報告事項 1) 平成25年度事業報告について
- ④審議事項 1) 貸借対照表及び損益計算書(正味財産増減計算書)の承認について
2) 役員の辞任及び選任(案)について
- ⑤その他 1) 世界ジオパークネットワーク現地審査について

2. 理事会

阿蘇DCの運営に関する事項を決議する理事会を5回開催しました。

1) 第1回理事会

- ①開催日 平成26年 5月22日(木)
- ②場 所 大阿蘇環境センター「未来館」会議室C(阿蘇市)
- ③議 題 議案第1号 平成25年度事業報告(案)について
議案第2号 平成25年度会計決算(案)及び監査報告について
議案第3号 平成26年度一般会計補正予算(案)について
- ④協議事項 1) 役員の就退任(案)について
- ⑤その他 1) 世界ジオパークネットワーク現地審査について

2) 第2回理事会

- ①開催日 平成26年 8月 4日(月)
- ②場 所 ホテルサンクラウン大阿蘇(阿蘇市)
- ③議 題 議案第1号 平成26年度第二回一般会計補正予算(案)について
- ④その他 1) 世界ジオパークネットワーク認定現地審査の現況報告について
2) 平成26年度あそ大草原物語事業について

3) 第3回理事会

- ①開催日 平成27年 1月26日(月)
- ②場 所 熊本県阿蘇総合庁舎2F大会議室(阿蘇市)
- ③議 題 議案第1号 公益認定に係る事業計画の一部変更について
議案第2号 あか牛振興事業ツーリズム EXPO ジャパンの経費について
- ④報告事項 報告第1号 専決処分の報告について
1) 第10回全国草原サミット・シンポジウム開催経費補助
2) 阿蘇ジオパークの世界ジオパークネットワーク加盟に伴う経費
3) 阿蘇地域観光体験プログラム(阿蘇カルデラツーリズム)増刷経費
報告第2号 平成26年度阿蘇地域元気再生支援事業について
- ⑤その他 1) 財団理事・幹事の選任について

4) 第4回理事会

- ①開催日 平成27年 3月 2日(月)
- ②場 所 ホテルサンクラウン大阿蘇(阿蘇市)
- ③議 題 議案第1号 公益認定に係る事業計画の一部変更(案)について
議案第2号 平成26年度一般会計補正予算(案)について
議案第3号 平成27年度事業計画(案)について
議案第4号 平成27年度一般会計予算(案)について
- ④協議事項 協議第1号 定款の変更(案)について

5) 第5回理事会

- ①開催日 平成27年 3月 9日(月)
- ②場 所 ホテルサンクラウン大阿蘇(阿蘇市)
- ③議 題 議案第1号 後任理事長の選任について

3. 幹事会

阿蘇DCの事業運営に関する事項を協議し、意見を具申する幹事会を7回開催しました。

1) 第1回幹事会

- ①開催日 平成26年 5月13日(火)
- ②場 所 大阿蘇環境センター「未来館」(阿蘇市)
- ③協議事項 1) 平成25年度事業報告(案)について
2) 平成25年度会計決算報告(案)について
3) 平成26年度一般会計補正予算(案)について
4) 役員の就退任(案)について
- ④その他 1) 平成26年度あそ大草原物語事業について

2) 第2回幹事会

- ①開催日 平成26年 7月16日(水)
- ②場 所 熊本県阿蘇総合庁舎2F大会議室(阿蘇市)
- ③協議事項 1) 平成26年度第2回一般会計補正予算(案)について
2) 平成26年度あそ大草原物語事業について

3) 第3回幹事会

- ①開催日 平成26年10月31日(金)
- ②場 所 大阿蘇環境センター「蘇水館」(阿蘇市)
- ③協議事項 1) 平成26年度一部事業の事業費の変更について
2) 阿蘇地域振興デザインセンターの事業見直しについて
3) 諸規則の整備について
 - ①理事会運営規則等の制定について
 - ②その他

4) 第4回幹事会

- ①開催日 平成26年12月 5日(金)
- ②場 所 熊本県阿蘇総合庁舎2F大会議室(阿蘇市)
- ③協議事項
 - 1) ツーリズム EXPO ジャパン専決報告について
 - 2) 平成27年度以降の事業の取り扱いについて
 - ①平成26年度事業の実施報告について
 - ②今後の対応について

5) 第5回幹事会

- ①開催日 平成27年1月19日(月)
- ②場 所 大阿蘇環境センター「未来館」(阿蘇市)
- ③報告事項
 - 1) 平成27年度事業計画(案) 予算(案) 取扱いについて
- ④協議事項
 - 1) 公益認定に係る事業計画の一部変更について
 - 2) (公財)阿蘇地域振興デザインセンター事業について

6) 第6回幹事会

- ①開催日 平成27年2月23日(月)
- ②場 所 大阿蘇環境センター「未来館」(阿蘇市)
- ③協議事項
 - 1) 平成26年度第3回一般会計予算(案)について
 - 2) 平成27年度事業計画(案)について
 - 3) 平成27年度一般会計予算(案)について
- ④報告事項
 - 1) 公益認定に係る事業計画の一部変更について

7) 第7回幹事会

- ①開催日 平成27年3月26日(木)
- ②場 所 阿蘇市農村環境改善センター
- ③協議事項
 - 1) 派遣職員について
 - 2) 阿蘇地域振興デザインセンター次長について
 - 3) 新規プロパー職員の採用について

Ⅲ. 阿蘇DCの事業報告

1. 豊かな自然による世界ブランドの確立

熊本県下では、阿蘇草原再生千年委員会の設立や阿蘇草原再生募金の開始等により、阿蘇の草原を維持・再生する気運が高まっています。そのような中、平成25年5月には、国際連合食糧農業機関（FAO）が次世代へ継承すべき持続的な農業システムとして認定する世界農業遺産に「阿蘇の草原の維持と持続的農業」が認定され、平成26年9月には阿蘇ジオパークが世界ジオパークの認定を受け、阿蘇の豊かな自然による世界ブランドがまた一つ世界的に高い評価を受けたこととなります。今後は世界文化遺産認定を目指し、豊かな自然を守りながら活用していくことが重要になってきます。ここでは、阿蘇の貴重な財産である「草原の維持・再生」を中心に、環境・景観保全の促進を図りました。

1) 草原再生PR事業「あそ大草原物語の開催」

千年にわたり守られてきた阿蘇の草原を次世代に継承していくことの重要性や誇りを広く共有するため、当財団の幹事会において実行委員会を組織し、草原に関する生活文化を地域住民自らが掘り起し、次世代に引き継ぐべき文化として紡ぎ上げていく取組みとして「あそ大草原物語」を継続して開催しました。

秋季に開催される地元市町村主催イベントのうち、草原再生のPR等を内容として盛り込むイベントに対しその経費について所要額を助成し、草原の干し草を使用した草アートの制作・展示、草原再生に関する学習ブースの設置等を実施しました。

町村名	イベント名	期 日	会 場
小国町	小国観光 PR 感謝祭	平成 26 年 10 月 5 日	道の駅小国ゆうステーション
南小国町	世界ジオパーク認定記念・押戸石ジオサイト観月会	平成 26 年 10 月 11 日	押戸石の丘
高森町	あそ千年祭	平成 26 年 10 月 12 日	高森町観光交流センター
阿蘇市	第 14 回阿蘇マルシェ	平成 26 年 10 月 18 日	阿蘇体育館駐車場
南阿蘇村	あそのみなみのあきまつり	平成 26 年 10 月 19 日	あそ望の郷くぎの
山都町	蘇ジョレーヌーボーとあか牛まつり	平成 26 年 11 月 2 日	そよ風パーク
産山村	うぶやまよかこ祭 2014	平成 26 年 11 月 9 日	うぶやま牧場
西原村	第 15 回にしはらふれあいまつり	平成 26 年 11 月 15-16 日	西原中学校グラウンド等

2) 草原再生PR事業「阿蘇地域航空写真撮影及び略モザイク作成」

草原総合特区関係者及び地域における牧野組合や草原再生関係者、旅行商品造成関係者とも連携して、草原及び牛馬看視施設の積極活用を行い、草原における観光放牧の実施、散策道及びトレッキングコースの導入、山菜摘みエリアの確立、草原体験学習プログラムの導入と実施施設の整備(既存施設の転用を図る)、キャンプ場の再整備等により再生を図り観光資源化することにより、総合特区の目的でもある草原利活用の促進を目指すものです。今回は、阿蘇北外輪の大規模野焼き再開プロジェクトと連携し、検討に際して必要とする上空から俯瞰した航空写真を撮影し、略モザイク製本版を作成しました。

3) 野焼き支援事業「阿蘇スタディツアーの開催」

現在、問題視されている野焼きボランティアの高齢化。その対抗策として、当財団ではボランティアリズム形態を通して、若年層や外国人向けに、新たな担い手ボランティアの拡大・阿蘇来訪者の増加を図る「阿蘇スタディツアー」と題した、1泊2日での阿蘇の草原を体験する・知る・守るツアーを企画し、今回は立命館アジア太平洋大学(外国人留学生)と九州大学藤原研究室の学生を招聘し、その一助としました。九州大学藤原研究室からは19名、立命館アジア太平洋大学からは18名の参加があり、阿蘇の野焼きの現状などを把握し、阿蘇の草原維持の活動や阿蘇の自然についてより多くの人に伝えるため、参加学生にはFacebookやtwitterなどのSNSを通し、阿蘇の情報を発信してもらうとともに、地域施策反映へ向けた検討材料とするためアンケート調査も協力してもらいました。阿蘇スタディツアー終了後、阿蘇の草原について学んだ九州大学の学生たちは、自ら「野焼きボランティア初心者研修会」に参加し、博多で行われた「くまモンファン感謝祭 in Fukuoka」内でも草原のPRに努めました。また、実際の野焼きにも参加する意欲を見せてくれました。

4) 野焼き支援事業「地域活性化総合特別区域認定計画策定」

本業務は、「千年の草原の継承と創造的活用総合特区」申請に基づく特例措置のうち、「第三種旅行業者の募集型企画旅行催行区域制限の緩和」(旅行業法の規制緩和)の適用を受けるために必要な「地域活性化総合特区計画」について、関係機関との調整を支援しながら計画原案を作成し、認定を受けることにより、旅行業の規制緩和の実現に資することを目的としていました。そうしたなか、関係機関との調整過程において、旅行業法の規制緩和によらない特例として「第三種旅行業者の募集型企画旅行催行区域制限の緩和」が可能になったため、認定のための「地域活性化総合特区計画」を作成する必要性が失われました。ただ、第三種旅行業者の区域拡大による募集型企画旅行は、当事者である第三種旅行業者にとっても初めての経験であることから、これを円滑に進めるための条件整理等を行うことにより、募集型企画旅行の催行を支援し、以って実質的な規制緩和を実現させることが重要と判断しました。

今回は、「地域活性化総合特区計画」の原案作成の業務を取りやめ、これに代わり、区域拡大による募集型企画旅行の催行を希望する第三種旅行業者の意向に沿って、当該旅行プログラムの具体案を詰めるとともに、提携先の域内観光業者や誘客の可能性のある大手旅行業者のヒアリングを行い、計画原案作成のために実施した業務成果と合わせて整理することにより、実現のための条件を明らかにしました。

5) あか牛振興事業「阿蘇地域世界農業遺産ブランディングフォーラム」

阿蘇地域が世界農業遺産に登録されて1周年を記念し、東京都の国連大学と連携し、世界農業遺産に絡む阿蘇の取組みを前進させるフォーラムを開催しました。全国に世界農業遺産の知名度を広め、継続的なものとして定着させるため、9月には阿蘇の農業と観光の連携に焦点を当てたプレ講座を開催、10月の2回目には農業大国であり洗練かつこだわりの食文化を世界に誇るフランスからパリ・ソルボンヌ大学前総長ジャン・ロベール・ピット教授を講師にお迎えし、地理と食の関係、食のもたらす地域の活力を解き明かしていただきました。また国連大学の武内上級副学長からもお話をいただくとともに、ピット教授とのコラボにより農業の歴史、景観、これからの食に関する展望を語っていただき、世界農業遺産に登録されている他県との連携や、阿蘇の取組みや事例を広く周知することができました。

プレ講座：平成26年9月26日（金）「国連大学レセプションホール」

本講座：平成26年10月28日（火）「国連大学エリザベス・ローズ国際会議場」

6) あか牛振興事業「観光利用放牧地等整備調査業務」

昨今、地域の資源を等身大で味わうことのできる歩く旅が注目されています。阿蘇カルデラの広大な草原をそうしたツーリズムの舞台にできないかという機運が起こっていますが、営農の現場である草地では防疫対策等を考慮したうえでの検討となります。あくまで阿蘇という地域の生業としての草原、景観を保持し、そこへ新たなツーリズムのニーズを取り込んでいくことが重要です。コース設定のルートや時期、あるいは付帯させるプログラムの数々を阿蘇の個性を引き立てる構図で形成していくことがカギとなります。草原を身近に感じられる牧柵等のデザインも考慮しつつ施設整備やソフトウェアの追加について建築都市デザイン的な観点から調査研究したのが「阿蘇かずらかご」です。今回は、阿蘇市波野地区をモデル地区として調査研究しました。

7) 阿蘇ジオパーク活動の推進

阿蘇ジオパーク推進協議会による活動として6年目を迎える平成26年度は、世界ジオパーク認定を受けた記念すべき年でした。当財団が事務局を担い、阿蘇火山博物館に阿蘇ジオパーク推進室として分室を設け、推進体制の強化を図りながら、解説板の設置やパンフレット充実など環境面の整備に加え、地域への普及啓発活動に取り組んできました。平成26年7月は、香港世界ジオパークと更なる連携強化を図り、パートナーシップ協定を締結しました。8月は、世界ジオパークネットワークから2名の審査員を招き、4日間にわたる現地審査が行われ、翌9月にカナダのストーンハンマー世界ジオパークで開催された第6回ジオパーク国際ユネスコ大会にて、阿蘇地域の世界ジオパーク認定が発表されました。また、同時に4年後の再審査に向けた更なる阿蘇地域の改善に対する課題も指摘されたところです。他方、これまでの活動が認められ、平成27年1月に環境省のエコツーリズム大賞「特別賞」を受賞しました。

調査研究活動では、ジオパークを学際的な視点から捉え、ジオサイトの保全と活用を目的とする資源調査などを実施し、その価値や取組み方策を考えるための各種専門家により構成される「阿蘇ジオパーク専門家委員会」を開催し、11月下旬から小規模噴火を観測した中岳における今後の噴火活動をジオパークとしてどのように捉えるかについて検討しました。また、風評被害対策における正確な情報発信の基礎として、拠点施設である阿蘇火山博物館が行う火山灰の採取に関する支援も継続して実施しています。

普及啓発活動では、地域住民とガイド、専門家の協働をテーマに事業を実施し、先進地事例を紹介する講演会や世界ジオパークネットワーク関係者を招いた国際的な講演会など幅広く取り組み

ました。平成 26 年度は、阿蘇くじゅう国立公園指定 80 周年であり、国立公園とジオパークの更なる連携強化を図り、今後の活動について議論しました。また、九州ジオパークとアジア太平洋ジオパークネットワークの交流を深め、新たなツーリズムの開拓を図るためのワークショップを開催しました。さらに、中岳噴火における火山活動への住民の理解を深めるため、地域住民を対象とした情報共有会議を降灰のあった高森町や阿蘇市で開催しました。ここでは、多くの出席者がみられ、関心の高さを示すものでした。

教育的活動の分野では、平成 25 年度から始まった阿蘇中央高等学校の総合学習「阿蘇ジオパーク学」や阿蘇青少年交流の家の「ジュニアジオガイド」を継続し、地域啓発への広がりがみられます。特に、ジュニアジオガイドの活動は現地審査において非常に好評だっただけでなく、環境省の第 10 回エコツーリズム大賞の原動力ともなる重要な連携活動でした。

ガイド育成活動では、阿蘇火砕流でつながりのある九州 3 地域のジオパーク地域との現地研修・交流や、国際的なガイド育成のための地元外国人講師による英会話スキルアップ講座を実施し、ガイダンスの表現方法を研究しました。これらの研修や研究の成果として、ガイドマニュアルの改訂版データも作成しています。また、阿蘇ガイド養成講座を実施し、新たに 21 名の認定ガイドが誕生し、阿蘇ジオパークガイドは 63 名構成となりました。ガイドに必要な能力は、カリキュラムとして取りまとめ、今後の新規ガイド育成に役立てます。

情報発信活動では、阿蘇中岳噴火に伴う風評被害対策、火山活動への理解を深めるため、火山灰や阿蘇山の火山活動をパンフレットとして作成し、阿蘇地域内外でのイベント等にて配布活動を行いました。また、各地域に点在するジオサイトの解説板も新たに 8 基設置し、モデルコースを紹介する PR-DVD を作成し、公式ホームページやユーチューブなどを活用し、広く紹介しています。さらに、阿蘇地域の新たなジオツアー開拓のため、無料ジオツアーや、外国人によるモニターツアーを踏まえ、ハンズオン支援により環境面の改善を図っています。このとき実施した満足度調査の結果は、今後の受け入れ環境の向上に活かすものです。

平成 26 年度の財源は、当財団からの負担金のほか、環境省の生物多様性保全推進交付金（エコツーリズム地域活性化支援事業）や、熊本県広域連携プロジェクト（スクラムチャレンジ）推進補助金及び構成 8 市町村負担金、阿蘇市から受託の熊本県緊急雇用創出基金事業などを活用した取り組みです。

8) 阿蘇の景観と食に関するフォーラム

平成 23 年度から平成 26 年度の 4 年間、熊本県及び阿蘇郡市町村と共同で「阿蘇環境デザイン策定事業」に取り組んできました。これは、世界文化遺産登録へ向けた地域資源の確認と運動啓発を睨み、「阿蘇の文化的景観」の保全計画の検討を目的としたものです。

平成 26 年度は、阿蘇くじゅう国立公園が指定 80 周年を迎え、また阿蘇地域が世界農業遺産に登録されて 1 周年でした。前出の保全計画が、国立公園の素養と特異な農文化の側面を有す阿蘇地域を舞台に、いよいよ国に対する重要文化的景観の選定申出に目途が立った年でもありました。こうした事柄を合わせ、記念のシンポジウムを熊本大学と共催しました。食と景観の世界的権威であるパリ・ソルボンヌ大学前総長ジャン・ロベール・ピット教授を迎え、熊本と東京で、フランスの事例を紹介しながら表題について講演をいただきました。

2. 地域の元気再生による地域力向上

阿蘇地域が抱えている積年の課題として、地域の基盤産業の弱体化や若年層の流出など、地域の生活基盤に影響を及ぼすものが多くあります。一方で、阿蘇の環境・景観等の遺産に大きな関心が寄せられています。こうした課題や期待に応えるためには、地域のリーダーとなる人材を育成していく、またコミュニティビジネスの芽を育てていく必要があります。地域課題解決に向けた地域づくり事業や地域資源等を活用したコミュニティビジネス等を支援することで、地域コミュニティの強化による地域力の向上を目指します。

また、阿蘇地域の情報発信は、域外へはもちろんのこと、域内の住民向けにも啓発を兼ねたものとして実施するものです。単なる阿蘇の地域振興や観光面だけでなく、阿蘇地域の市町村が有する本来の魅力を情報誌やインターネットなどの媒体で配信しました。

1) 阿蘇地域元気再生支援事業

本事業は、地域の元気再生による地域力の向上を目指し、地域の自然、文化、歴史、産業、生活習慣等の特性を地域資源として発見、活用し、魅力ある地域づくりと地域の活性化を図ることを目的とした取組みに助成を行うものです。平成 26 年度からは、2 町村以上の連携に関しては最大で 120 万円の補助とし、以下に示す事業に支援を行いました。

(単位：円)

番号	事業名	場所	事業主体	内容	交付額
1	小国郷観光推進事業	南小国町・小国町	小国郷観光会議	小国郷全体の地図と観光スポット、食、温泉などを盛り込んだ「小国郷観光マップ」の制作。その他、観光情報に特化したフリーペーパーの制作や共同イベントの開催など。	1,200,000
2	くまもと地球元気村 in ASO	阿蘇地域一帯	熊本県観光連盟	「くまもと地球元気村 inASO」メインイベントでの食ブース、「阿蘇 食道」及び足湯ブースの設置。開催を希望するサテライトイベントでのサテライトイベントの実施。	1,200,000
3	門前町商店街滞在促進事業	門前町商店街一円	若きやもん会	各商店の情報及び阿蘇神社の行事、商店街で開催するイベントを掲載したパンフレットの製作及び印刷を四半期ごとに行う。	500,000
4	熊本型教育旅行体感プログラムパンフレット製作事業	阿蘇市	阿蘇温泉観光旅館協同組合	熊本型教育旅行体感プログラムパンフレット製作。 A4 サイズ 70 ページフルカラー10000 部。	500,000

5	旧大野小学校を拠点とした元気な地域づくりプロジェクト	山都町大野地区	大野自治振興区	旧大野小学校を拠点とした住民ワークショップの開催。食資源を活かした農産加工品開発に向けた検討。「大野よかどこマップ」の原案作成。地域活動の情報発信「大野わくわく通信」の作成・発行。	300,000
6	蘇ジョレーヌーボーとあか牛まつり	そよ風パーク芝生公園	蘇ジョレーヌーボーとあか牛まつり実行委員会	会場内でバーベキューと地元ブルーベリーを使ったワイン（蘇ジョレーヌーボー）とのコラボにより地元の「味」を堪能していただく。また、隣接する宮崎県五ヶ瀬町のワイナリーで生産されたワインも紹介し九州の中央部に位置する隣接町との連携PRも行う。	450,000
7	蘇陽峡もみじ祭り	蘇陽峡一帯	蘇陽峡もみじ祭り実行委員会	阿蘇ジオパークの南に位置する「蘇陽峡ジオサイト」。この特有な形成を学び、独特な景観について認識し新たな地域活性化の素材を発見するイベント。	220,000
8	南阿蘇マルシェ	シーモール下関	一般社団法人みなみあそ村観光協会	昨年度の阿蘇ぼうマルシェに引き続き、山口県下関市「シーモール下関」にて、観光PRイベントを開催する。今回はモンベルフレンドエリアである南阿蘇村と山都町との共同イベントとする	1,200,000
計					5,570,000

2) 情報誌の作成

情報誌「ASO大陸」の発行は、“地域の人々の手でつくり上げる地域の人々のための情報誌”をコンセプトに、阿蘇地域に生活する人々を読者対象とするものです。地域の意見や情報を反映する方策の一環として、民間主導型の地域協議会により、そこで広く深く情報収集や企画・編集作業などを行い、個性とパブリック性の高い情報誌を提供しました。

また、阿蘇リピーター客の獲得増進を図るため、阿蘇地域への旅行泊という具体的な行動を起こした人たちに、地域ならではのコアな着地型情報を追加的に提供し、当該客及びその周辺の縁故者たち平成27年度以降の再来訪を促すことを目的に、阿蘇歳時記カレンダーブックを発行し、阿蘇地域の主要な宿泊施設の客室に設置しました。

①情報誌「ASO大陸」(VOL.9~12)の発行 各3万部

※配布先：阿蘇地域全世帯、熊本県、阿蘇地域市町村、その他

②機関紙「WAVE」(VOL.21)の発行 3万部

※配布先：阿蘇地域全世帯、熊本県、阿蘇地域市町村、その他

③阿蘇歳時記カレンダーブック(阿蘇暦)の発行 5万部

※配布先：阿蘇地域の主要な宿泊施設の客室やフロント周り、その他

3) ホームページの管理・運営

平成13年度から先進的な事例として「スローな阿蘇づくり」をより分かりやすく紹介するための動画専門サイト「阿蘇テレビ」を運営してきましたが、現在は動画サイトの一般化やYouTubeなどの参入により、これまでの取組みに一定の成果を認め、その役割を終え、廃止としました。

平成18年度の国土交通省実証実験「まちなみぐりナビ・プロジェクト」の成果により、携帯電話を活用した移動支援と多彩な観光情報の提供機能として開発した「阿蘇ナビ」は、平成22年度の財団法人地域総合整備財団(ふるさと財団)からの助成事業を活用して、阿蘇観光情報のデータベース化と併せて、大幅リニューアルしてきたところであり、総合的な管理・運営体制を推進しています。

また、平成22年度に総務省の地域雇用創造ICT絆プロジェクト事業で導入しましたパソコン(Macbook)やWiFi環境、さらには観光庁の観光地域づくりプラットフォーム支援事業などで導入しましたデジタルサイネージの円滑な運用を図りました。

①阿蘇DC公式ホームページ <http://www.asodc.or.jp>

②阿蘇データベース「阿蘇ナビ」 <http://www.asonavi.jp>

③Macbook及び無線LAN親機(域内120ヶ所に貸出し中)

④阿蘇デジタルサイネージ(域内13ヶ所及び博多駅に設置・運用中)

4) ラジオ番組の放送

毎週土曜日のお昼12時30分から13時までの30分番組、FM熊本の「ゆるゆるのんびりASO大陸」の放送内容や取材先の決定、生電話コーナーの出演者の手配等を行いました。阿蘇地域の人や自然、観光地、イベントなどを広く紹介し、阿蘇の魅力を発信しています。

3. 広域連携による競争力のある観光地づくり

阿蘇地域は、これまで自然のフィールドや農村集落、商店街などの活性化に取り組み、地域の魅力を引き出しながら阿蘇カルデラツーリズムを推進してきました。これは、阿蘇地域への訪問客を観光の面だけにとらえず、地域の取組みに誘客し、経済的な波及効果をもたらすものとして取り組んできました。一方で、観光の将来展望として、時代の潮流も地域の質の向上や滞在地域への転換が求められています。

当財団は、こうした阿蘇に寄せられている様々な関心・評価に着目し、来訪者に対して地域に密着した滞在交流型の新しい旅のカタチを提供していきます。これまでの阿蘇カルデラツーリズムと公共交通が連携した滞在交流型の観光の仕組みを地域づくり型観光として継続し、地域振興と観光振興の融合を目指します。

1) 観光地域ブランド確立支援事業（国土交通省／観光庁補助）

本事業は、国内外から選好される国際競争力の高い魅力ある観光地域を形成するため、これまでの取組みを発展させ、地域独自の歴史・伝統・文化を活かした「ブランド」の確立を促進し、「日本の顔」となる観光地域づくりを推進するものです。

阿蘇地域は、観光圏整備法に基づき、大分県竹田市及び宮崎県高千穂町と県境を越えた広域連携により、阿蘇くじゅう国立公園などを活かした自然、温泉、歴史文化を連携させたブランドコンセプトである「阿蘇カルデラ ～命きらめく草原の王冠～」のもと、滞在交流型の観光地域づくりとして、平成26年度は以下に示す事業を実施しました。

① 阿蘇ガイド育成研修プログラム

滞在プログラム魅力向上・改善を目的とした阿蘇ガイドを育成するため、既存するモデルコースにおいて、バスを借上げ、全5回の実地研修を実施し、現地案内手法などを習得しました。また、阿蘇ガイドの先進事例研修（参加者11名）として、平成27年2月7日～8日に霧島ジオパークで開催された九州ジオパーク連絡会に出席し、ガイド相互間の交流とガイド技術の研修を受けました。

- ・第1回研修：平成26年6月24日、阿蘇ジオパークBコース
- ・第2回研修：平成26年7月2日、阿蘇ジオパークEコース
- ・第3回研修：平成26年7月18日、阿蘇ジオパークCコース
- ・第4回研修：平成26年7月22日、阿蘇ジオパークDコース
- ・第5回研修：平成26年7月25日、阿蘇ジオパークAコース

② 阿蘇ジオサイトコースマップ作成

阿蘇地域で取組みを進めている阿蘇ジオパークの活動と連携した受入れ態勢の構築が先導的効果をもたらすことから、代表的なジオサイト5事例を活用したコースマップを作成しました。これらについては、今後の国際化への対応にも考慮し、日本語及び英語の二ヶ国語に対応したツールとして整備しました。

- ・コースマップ：A3判、2つ折タイプ、両面カラー印刷、1万部×5コース×2言語

③ 阿蘇めぐり二次交通実証実験

阿蘇地域における二次交通の環境が乏しく地域内を移動できる仕組みの構築が急務とされる中、国道57号線及び国道212号線等の主要な結節点でもあるJR阿蘇駅を起点とした周遊バスのルート

を構築し、地域を巡る二次交通の実証実験運行を実施しました。ルート及び時間、料金の設定、情報提供手段等の基礎資料をとりまとめ、今後の二次交通の環境整備に向けた検討資料となるものです。

平成26年8月13日から10月13日までの2ヶ月間、地域を巡る二次交通の実証実験運行を実施し、広報宣伝を目的としたPRチラシや、貸切バス車内における観光資源の紹介用として放送データを作成しました。期間中、台風のため2日間を運休し、実日数60日間で延べ313名の利用者があり、アンケート結果には好評な意見が多くありました。平成27年度以降における運行形態については、個別事業者である阿蘇温泉観光旅館協同組合により、自主事業として検討が進められています。

④ 阿蘇くじゅう観光圏ガイド連携システム構築

阿蘇五岳、久住連山、祖母傾山の三名山をトレッキングし、カルデラの内外から阿蘇の壮大さを確認する滞在プログラムの確立に向けては、互いのフィールドで活躍している山岳ガイドの連携が必須であることから、その体制づくりや共通マニュアルの整備が求められます。そこで、平成25年度実施の成果を踏まえ、具体的な動きとして、観光圏ガイド連絡会の設置、3地域意見交換の実施による課題の抽出、3地域連携によるモデルコースの開発、リスクマネジメントに関わる事項の抽出・知識の習得及び連携の仕組み検討、地域に関する情報の取得・配布・発信の仕組み検討、ツアー客受入れのための連携の仕組み検討、共通ガイドマニュアルの検討・作成までを実施しました。

- ・ 第1回ワークショップ：平成26年10月17日（阿蘇市就業改善センター）
- ・ 第2回ワークショップ：平成26年11月11日（阿蘇火山博物館）
- ・ 第3回ワークショップ：平成26年11月18日（ガンジー牧場）
- ・ 第4回ワークショップ：平成26年11月28日（高千穂中央公民館）
- ・ 第5回ワークショップ：平成27年3月13日（阿蘇草原保全活動センター）
- ・ 阿蘇ジオパークガイド協会／NPO法人久住みちくさ案内人倶楽部／高千穂山の会

⑤ 高千穂めぐり誘導案内板設置

熊本県阿蘇地域及び大分県竹田市、宮崎県高千穂町の連携した観光ルート設定においては、広域基幹林道や農免道路を利用し、最短ルートで分かりやすく誘導するため、22基の誘導案内板や総合案内板を設置しました。

⑥ 千年の草原を活用したプログラム開発

草原滞在の演出効果と付加価値を与えることを目的に、平成25年5月に策定した「千年の草原を活用した阿蘇地域活性化総合戦略」に基づき、新たな体験コンテンツを開発するため、平成25年度における草原トレイル5コース、体験プログラム20の提案をさらに具体的なものとするため、フィールドワークなどを全4回実施しました。それらを踏まえ、代表的な草原トレイルコースや草原を活用した体験コンテンツを紹介するパンフレットを作成し、拠点として新設された「阿蘇草原保全活動センター」とも連携を図り、相乗効果が期待されます。

- ・ 第1回ワークショップ：平成26年10月28日
- ・ 第2回ワークショップ：平成26年12月2日
- ・ 第3回ワークショップ：平成26年12月24日

- ・第4回ワークショップ：平成26年1月13日
- ・パンフレット：A4判、8ページ、全カラー印刷、日本語版、2万部発行

⑦ 奥豊後オルレ受入れ体制環境整備

竹田市の城下町地区には、近年韓国からの旅行者の受け皿として九州オルレ奥豊後コースが整備され、最近では韓国からの旅行者だけでなく、国内旅行者の利用も増えています。今回は、ターゲットとしている奥豊後オルレコースをはじめとする地域資源を活用したプログラム参加者への対応として、ランチ提供等への参考となる店舗の概要や場所を記した「食」に関するマップを、B6サイズ（展開B3サイズ）で、竹田城下町・萩エリア食マップを3万部、長湯温泉・久住高原エリア食マップを1万5千部作成しました。また、平成27年3月24日には作成したツールを活かしたモニターツアーも実施し、今後の竹田市観光に効果的に役立てていくものです。

⑧ 阿蘇北外輪地域資源調査開発

阿蘇北外輪地域をパイロットケースとし、阿蘇草原再生活動とも連携した滞在プログラムを創出するにあたり、平成25年度実施の阿蘇草原再生後継者育成プログラムに続き、主要なルートと想定される阿蘇北外輪地域に位置する阿蘇市西湯浦の“タケント坂”沿線の資源調査を実施しました。重要な資源が隠れている箇所については、灌木などで覆われているため、地元の協力を仰ぎながら伐採し、資源の調査・開発を行い、結果的には昔から言い伝えのある資源のうち、「船つなぎ石」は現場で確認できたが、「観音岩」は7～13体の観音様と思われるものを確認したまでが限度でした。本件は、阿蘇北外輪における大規模野焼き再開プロジェクトとも連携した取組みとして今後の展開に期待されます。

⑨ 阿蘇溶岩トンネル安全性検討調査

米塚周辺に点在する溶岩トンネルを活用した体験プログラムの創出にあたり、継続的な専門家による調査を踏まえながら、新たな要素としてジオパークの視点で解説を付加したガイド案内時に活用するプレゼンテーション用ツールを作成しました。平成26年11月25日には地元（永草区）関係者との現地調査、12月3日には阿蘇ジオパークガイド協会との現地調査を実施し、平成27年3月25日には実際に風穴を巡るモニターツアーを開催し、参加者に意見を聴取しました。今後は大手アウトドア会社によるアドバイスなどを受け、作成したツールを用いながら、運営体制やコース展開についても調整を行い、大手旅行社・雑誌社などと連携し、完全なプログラムとして構築を目指します。

⑩ 秋元集落どっぷり型プログラム確立

宮崎県の山間、高千穂町の村で真の田舎生活を体験する滞在プログラムの創出にあたり、平成25年度に取りまとめた調査報告書をもとに、神話の村“秋元集落”にどっぷり浸かり、俗世間とは別次元の空間を演出していくテーマ型プログラム創出に向け、現地体験モニター調査を実施し、資源価値を含めた滞在プログラムの評価はもとより、旅行商品としての販売方法等についても検証しました。

- ・第1回目モニター：平成27年1月10～11日（参加者4名）
- ・第2回目モニター：平成27年3月7～8日（参加者4名）

⑪ 押戸石の丘ツーリズム環境整備

南小国町「押戸石の丘」の新たな要素として、ジオパークの視点で解説した案内用パンフレットを5,000部作成し、ジオサイトとして保全と活用を図りました。既存の休憩スペースを地元案内人と会話ができ、ゆっくりとくつろげるスペースとして増改築し、観光地として整備を進めました。平成27年度以降は外国人旅行者のための、案内板・パンフレットの多言語化も視野に入れ、さらなる環境整備に努めます。

⑫ 高森町観光地域づくりコーディネーター育成

滞在プログラムの充実を図るためには、現時点の観光業務従事者のみの組織では十分とはいえません。農商工などありとあらゆる他の産業に精通したコーディネーター育成が必要不可欠であるため、農林業など他の産業をはじめ、地域のあらゆる資源や人に精通したコーディネーターとなる人材の発掘・育成を実施しました。関係者へのヒアリングを実施及び取りまとめ、コーディネーター候補を選出しました。

- ・ 第1回講座：平成26年7月28日
- ・ 第2回講座：平成26年9月29日（視察研修：福岡県八女市）
- ・ 第3回講座：平成27年1月19日
- ・ 第4回講座：平成27年3月5日（午前）
- ・ 第5回講座：平成27年3月5日（午後）

⑬ 阿蘇地域観光ガイド音声ペン導入

外国人旅行者をもてなす阿蘇地域の魅力の向上と多言語化による案内や地域での人々の交流など、国際競争力のある観光地に向けた整備も急務とされ、文化や習慣の違いなどをしっかり認識し、最低限の日常英会話程度の対応により、外国人旅行者もてなしの向上を図っていく必要があります。そこで、会話のレベル、挨拶をはじめ、日常的に行われると想定される問い合わせなどに対応でき、且つ阿蘇地域の代表的な観光スポット情報を多言語で情報提供できる阿蘇地域オリジナルの音声ペンの導入・運用を試みました。実施は、音声ペン100個導入、日常会話ベーシック版冊子50冊購入、阿蘇オリジナル版冊子10,000部作成です。阿蘇オリジナル冊子は、特に外国人旅行者の多い阿蘇山上周辺に特化した解説本としました。音声ペン50個と日常会話ベーシック版冊子は、宿泊施設や案内所などで運用します。残りの音声ペン50個と阿蘇オリジナル版冊子は、JR阿蘇駅で外国人旅行者に無料（デポジット制）にて試験的に貸し出す方式で運用し、音声ペン・冊子とも利用の定着を目指します。音声ペンは返却してもらいますが、阿蘇オリジナル版冊子は記念に持ち帰りできるような仕様としています。

⑭ ウェルカム阿蘇くじゅう&滞在機能強化大作戦

主たる滞在促進地区「阿蘇内牧温泉」で著しい伸び率を示している外国人旅行者への対応充実とインバウンドの現状を理解するために、外国人講師を招聘し、インバウンドセミナーを開催しました。宿泊施設従事者を中心に計36名が参加し、インバウンド教材の利用法と誤解を生まないためのコミュニケーション術の紹介のほか、日頃の外国人旅行者対応に関する問題点などを意見交換しました。 ・セミナー開催：平成27年2月24日／阿蘇ホテル一番館

⑮ 主たる滞在促進地区の空間形成計画策定

当観光圏においては、主たる滞在促進地区として「阿蘇内牧温泉」が指定されています。しかし、当温泉街（商店街）の現状は、地域らしさを演出する空間の形成がなく、また生活様式等の活用も踏まえてないことから、主たる滞在促進地区として景観形成も含めた改善が望まれます。このような課題を克服するため、阿蘇内牧温泉街の全体の景観整備などを含めた空間形成について、中長期的な計画策定を実施しました。オープンデータによる市場調査（観光資源の認識、認知度調査の企画立案）を踏まえ、平成26年12月2日に第1回検討会議、平成27年2月2日に第2回検討会議、2月13日に第3回検討会議、3月5日に第4回検討会議を実施しました。「ていねいな湯の町。内牧温泉」というタイトルで阿蘇内牧温泉空間形成計画の素案を策定。結論としては、「ていねい」の価値の象徴として、内牧温泉に新たなランドマークをつくるという計画案となりました。

⑯ 阿蘇カルデラツアー催行充実化

阿蘇温泉観光旅館協同組合の主催により、従来から宿泊者限定サービスとして提供している「阿蘇カルデラツアー」が着地型旅行商品として実践されていますが、マンネリ化と運営体制の強化、宿泊施設との連携の希薄さなどが課題として挙げられます。その催行の充実と、近年著しく伸びを示している外国人観光客への対応として英語版の内牧温泉案内パンフレットを作成しました。今回作成したパンフレットはホームページ化を視野に入れ、外国人旅行者にとっても、ゆっくりのんびり滞在できることのアピールツールとして活用します。

・パンフレット：B3判、両面カラー印刷、英語版 20,000部発行

⑰ 循環バス等カラーリング及び多言語化推進

近年のJR阿蘇駅前においては、日常的に外国人旅行者が来訪している状況にあり、多言語による移動支援が急務とされています。そこで、JR阿蘇駅前発の路線バスは、特に外国人利用者も多いため、二ヶ国語化を含めてバス車体にカラーリングを施し、誰にでも分かりやすく移動支援を表現しました。併せて、阿蘇地域で推進中のジオパーク活動をモチーフとしたデザインでカラーリングすることで、世界的な認知度を上げる取組みにも貢献します。今後は、別途作成するパンフレットやホームページなどで、カラーリングしたバス車体を紹介し、来訪者への移動支援の分かりやすさを強調します。

・阿蘇市循環バスのラッピング化：小型バス2台

⑱ 阿蘇くじゅう観光圏モニタリング調査

この取組みは、滞在交流型観光地づくりに向けての指標づくりとして、現状で不足している阿蘇くじゅう観光圏の特に滞在促進地区におけるリピーター率、一人あたり平均宿泊数、宿泊施設の稼働率などの調査と、2泊3日以上滞在を目的としていることから、宿泊者へのアンケートによる連泊・転泊の実態や満足度などの調査を実施しました。また、観光圏内の主たるアクセスポイント、滞在プログラムの出発点等、来訪者の回遊の拠点となる場所において、来訪者の旅行内容・満足度等を調べることにより、観光圏全体としての目標達成状況を把握することを目的として、直接聞き取り式による来訪者満足度調査を実施しました。

・調査期間：平成26年10月11日から平成26年11月30日まで（秋季）

平成27年1月10日から平成27年2月28日まで（冬季）

- ・滞在促進地区における宿泊者向けアンケート調査箇所（対象：約 100 施設）
内牧温泉、黒川温泉、杖立温泉、南阿蘇村温泉郷、長湯温泉、久住高原、高千穂峡
- ・アクセスポイントにおける直接聞き取りアンケート調査箇所（対象：5 ヶ所）
道の駅阿蘇、黒川温泉風の舎、阿蘇ファームランド、岡城址、高千穂峡

⑱ 阿蘇くじゅう観光ツーリストマップ作成

平成 24 年度に阿蘇くじゅう観光圏全域のマップを作成。地図縮尺はデフォルメせず、地域の高
低差なども把握でき、周辺に点在する主要な空港やインターチェンジなども盛り込む誰にでも分か
りやすいマップとしました。マップ裏面には滞在促進地区や交流地区などの詳細をイラストタッチ
で表現しました。

- ・マップ：A1 判、両面カラー印刷、日本語版 20,000 部発行

⑳ 阿蘇くじゅう観光プロモーション活動

阿蘇くじゅう観光圏の情報発信を目的に、従来の「旅フェア」と「JATA 旅行博」が統合して新
しいイベントとして東京都江東区有明の「東京ビッグサイト」で開催される「ツーリズム EXPO ジ
ャパン 2014」に出展しました。地元発の総意工夫による取組みとするため、事前の企画段階から
当日の会場設営及び運営までを一貫して、地元の地域づくり団体（NPO）に委託しました。また、
代表的な滞在プログラムを集約した PR パンフレットを日本語 20,000 部、英語 10,000 部、合計
30,000 部作成しました。

㉑ 阿蘇くじゅう観光ビジュアルイメージ創出

これまで創出してきた滞在プログラムを視覚的に表現するツールとして、代表的な滞在プログラ
ムのプロモーションビデオを作成しました。個別プログラムのみならず、全体的なイントロダクシ
ョン映像も添え、外国人旅行者への紹介も想定した二カ国語（日本語／英語）で対応しました。以
後は阿蘇の体験映像・イメージとして WEB などを中心に PR します。

㉒ 阿蘇ジオパーク地域住民啓発プロジェクト

地域住民が観光地域づくりの重要性を理解し、主体的な活動を行う機運の醸成を図るため、鋭意
推進中の阿蘇ジオパーク活動をテーマに地域ワークショップや郷土学習などを実施しました。専門
家に熊本大学名誉教授（阿蘇ジオパーク推進協議会顧問）の渡辺一徳氏を招聘し、下記 5 地域にお
いて地域住民への啓発活動を展開しました。当初 8 地域での実施を予定していましたが、地域から
の自発的な要望に対応する計画であり、次年度以降さらに積極的に開催を働きかけます。

- ・第 1 回活動：平成 26 年 6 月 27 日、小国町／杖立温泉ジオサイト（参加者 11 名）
- ・第 2 回活動：平成 26 年 7 月 11 日、南小国町／押戸石の丘ジオサイト（参加者 13 名）
- ・第 3 回活動：平成 26 年 10 月 28 日、山都町／蘇陽峡ジオサイト（参加者 31 名）
- ・第 4 回活動：平成 27 年 2 月 26 日、西原村（参加者 60 名）
- ・第 5 回活動：平成 27 年 3 月 5 日、阿蘇市（参加者 38 名）

㉓ 阿蘇くじゅう観光ブランドセミナー開催

今回は、平成26年9月に世界認定を受けたジオパーク活動と観光圏の取組みを包括した中で、インバウンド対策などグローバルな視点に立った観光地域づくりについて考えるセミナーを平成27年3月3日に開催しました。講師として、日本ジオパーク委員会事務局の渡辺真人氏と、JTB旅行事業本部観光戦略室の山下真輝氏を招聘し、阿蘇くじゅう観光圏と阿蘇世界ジオパークとの連携による相乗効果などについて、セミナー参加者に周知することができました。

- ・セミナー開催：平成27年3月3日、阿蘇プラザホテル（参加者70名）

㉔ 阿蘇くじゅう地域コンシェルジュ育成研修

滞在交流型の旅を提供するため、現場での相談など適切に対応する地域コンシェルジュの確立が必要です。各市町村単位にある観光インフォメーション機能や、地元旅行会社などを地域コンシェルジュとして育成するための研修会を開催しました。また、本研修会では、各エリアでの現地研修などを取り入れ、情報共有を図り、横の連携強化を含めた受入れ体制の強化を図りました。

- ・第1回研修：平成26年10月30日、阿蘇市農村環境改善センター（参加者40名）
- ・第2回研修：平成26年11月26日、高森町／子だぬきの小みち散策（参加者21名）
- ・第3回研修：平成27年1月20日、竹田市／”隠し”キリシタンの謎に迫る（参加者42名）
- ・第4回研修：平成27年2月20日、高千穂町／高千穂神楽を支える集落（参加者38名）
- ・第5回研修：平成27年3月9日、産山村／清らかな湧水と田舎暮らし（参加者27名）
- ・第6回研修：平成27年3月25日、阿蘇市／米塚の風穴で溶岩流体験（参加者30名）

㉕ 阿蘇温泉郷・湯ごもり祭開催

阿蘇くじゅう観光圏に点在する特徴的な「温泉」資源の魅力に焦点をあて、各温泉地を舞台に期間限定により「阿蘇温泉郷・湯ごもり祭」を開催しました。本イベントの開催にあたり、PRポスターやパンフレット等を作成し、地域内外へ広く情報発信しながら誘客促進を図り、もって滞在機能強化を推進しました。期間中、昨年度から継続したじゃらんを活用したプロモーション展開を図り、平成26年度からは熊本県下で話題数第1位のフェイスブック「TeamASO」との連携によるプロモーション展開も実施し、誘客に努めました。平成26年度は、第5回目の開催であり、期間は11月1日から翌年2月28日までの4ヶ月間と設定しました。期間中、3362セットの入浴券購入があり、延べ15244名の利用者があり、阿蘇地域の冬季における誘客施策として定着化しつつあります。

- ・PRポスター作成：B2判、カラー印刷、300枚
- ・パンフレット作成：A2／4+4判、両面カラー印刷、30000部
- ・入浴券作成：220×85mm×5枚綴、4,000部
- ・店舗用運営手引き：A3サイズ、A4サイズ、各110部 販売所用30部
- ・スタンプ①（めぐり湯用）：15mm、110個・スタンプ②（泊まり湯用）：20mm、110個

㉖ 阿蘇スローフードフェスタ開催

阿蘇の「農」と「食」の魅力に焦点をあて、農家レストランや農家民宿、直売所などを舞台に「阿蘇スローフードフェスタ」を開催しました。期間は平成26年11月29日から平成27年2月28日。参画数は40店舗。期間内は2,034枚もの応募がありました。当初、イベント開催については、秋

季の9月から11月を想定していましたが、この時期は様々なスタンプラリーなどのイベントが重なり、従業員などが判断に迷うなどの意見があり、冬季へ時期をずらして開催しました。阿蘇スローフードクーポンブックは、通年版という設定により、クーポン利用は平成27年9月30日までの利用期間としました。

㉗ 道の駅“そよ風パーク” 魅力アップ展開

山都町にある道の駅「そよ風パーク」は泊まれる道の駅という珍しい道の駅ですが、土地面積が広く、且つ敷地内の看板は老朽化しており、来訪者にとって分かりにくい案内となっていたことから、スムーズな滞在を楽しんでもらうために、道の駅内の誘導案内板6基の整備を行いました。当初は、案内板への英語表記も併記することを検討していましたが、板面の広さに限りがあることで、混雑した見え方になる可能性があるとの判断から、英語併記を断念し、代わってピクトサインによる表示対応としました。

2) 阿蘇カルデラツーリズムの推進

阿蘇における地域づくり型観光の取り組みは、自然を活用した「エコツーリズム」、農村集落を活用した「グリーンツーリズム」、商店街や温泉街を活用した「タウンツーリズム」という3つの地域ツーリズムの総合体による「阿蘇カルデラツーリズム」の開発と、公共交通網のシステム化を融合した「スローな阿蘇づくり」をベースに、滞在交流型観光地を創出します。

① エコツーリズムの推進

阿蘇地域でエコツーリズムを推進している団体（13団体）により、平成21年度から設立の「阿蘇エコツーリズム協会」の運営では、各団体が実施しているプログラムを基本にした阿蘇エコツーリズム協会のホームページの管理・運営を行い、阿蘇地域のエコツーリズムを広くPRしました。

また、平成25年度に作成したガイド育成マニュアルの残数が少ない状況にあったため、改訂版を作成し、阿蘇をガイドする案内人への共通マニュアルとして増刷しました。

さらに、阿蘇を歩こう実行委員会と連携を図り、阿蘇のエコツーリズムへの共通の認識のもと、熊本県が実施する阿蘇を歩こうプロジェクトへの活動にも積極的に参加しました。

・マニュアル：A5判、本文68ページ／2色刷り、500部発行

② グリーンツーリズムの推進

平成23年度に開催した「阿蘇ゆるっと博」の成果を受け、様々な課題の調査分析を基に、地域の農業者や住民と連携し、課題解決のために必要な地域資源を活用した取り組みを実践し、阿蘇地域の活性化を図ることを目的に、農家レストランや農家民宿、直売所が連携した店舗により、阿蘇グリーンツーリズム協議会を組織しています。平成26年度は、毎年秋季に開催している「阿蘇スローフードフェスタ」を観光庁の観光地域ブランド確立支援事業を活用し、時期を冬季（12月～2月）にずらして開催しました。今回は例年の内容を少し変更し、参画店舗で配られる応募ハガキにてキャンペーンに応募するスタイルとし、抽選ののち当選者には、阿蘇グリーンツーリズム協議会の参画店舗で使用できる商品券や、阿蘇の産品詰め合わせ、農家民宿の宿泊券などを商品として提供し、たくさんの応募をいただきました。

ネットを活用した情報発信研修も阿蘇北部・中部・南部それぞれで開催し、ネット活用に前向きな店舗などに対し、ネット上への情報の載せ方や、既存の「阿蘇ナビ」への情報掲載の仕方など実

際にパソコンを使い実践しながら指南することができました。

また、阿蘇地域の産品を阿蘇地域内外へ売り出すための「売れる産品づくり研修会」も阿蘇それぞれの地域で開催し、産品セットの上手な作り方や、売り出し方などを専門家の意見も交えた開催としました。

③タウンツーリズムの推進

阿蘇市一の宮町の「一の宮町門前町会」「わきやもん会」、内牧温泉街の「うちのまき案内人協会」「内牧温泉街繁栄会」、阿蘇駅前の「ASO田園空間博物館」、高森町の「風と森の会」、小国町杖立温泉の「チーム背戸屋」などの地域づくり団体へ、日常的に情報交換やアドバイスをを行いながら、広域連携の強化を図っています。

また、火の国未来づくりネットワーク阿蘇地域ブロック主催の阿蘇地域づくり団体交流会に協力し、平成26年度は世界農業遺産ビジネスプランコンテストを開催し、地域づくり団体相互のネットワークづくりと阿蘇地域の活性化に波及する取組みにつなげました。

3) 回遊の交通体系づくり

阿蘇地域における公共交通網の整備については、平成23年の九州新幹線鹿児島ルートの特急全線開業に合わせて、新型観光列車「あそぼーい！」が同年6月から運行開始されました。産交バスでは、「小国郷ぐる〜っとバス」及び阿蘇市の「宮地環状線バス」、南阿蘇村の「南阿蘇ゆるっとバス」の運行など循環バスの充実化は勿論、南阿蘇鉄道のトロッコ列車の継続的な運行に向け、下記の取組みを継続しています。

① あそまる切符への支援

全日本空輸(株)と九州産業交通ホールディングス(株)は、ANA並びに旅行商品「ANAスカイホリデー」の阿蘇くまもと空港到着便利用の来訪者を対象に、阿蘇くまもと空港と阿蘇くじゅう観光圏及び熊本駅までの、九州産交バスやロープウェーが乗り放題(2日間又は3日間)となるお得で便利な切符「あそまる」を発売に伴い、阿蘇くじゅう観光圏の地域協議会である「阿蘇くじゅう高千穂デザイン会議」において、WEBプロモーションによる支援をしました。

② 阿蘇レンタサイクル(電動アシスト機能付き)運営

平成20年度から観光庁の観光圏整備事業や観光地域づくりプラットフォーム支援事業、観光地域ブランド確立支援事業を活用し、導入した電動アシスト付きレンタサイクルは、阿蘇市、小国町、高森町、南阿蘇村の主要な交通結節点などに、合計55台設置し、貸し出してきました。平成26年度の貸出し台数は、約1,000台であり、特に高森駅での貸出しが約1/3を占めており、公共交通機関からの次の交通手段として利便性に期待されます。

なお、平成20~21年度に導入した阿蘇市や高森町、南阿蘇村の20台は、耐用年数2年間を経過していることから、運用委託先の管理者に無償譲渡をしています。

4. その他

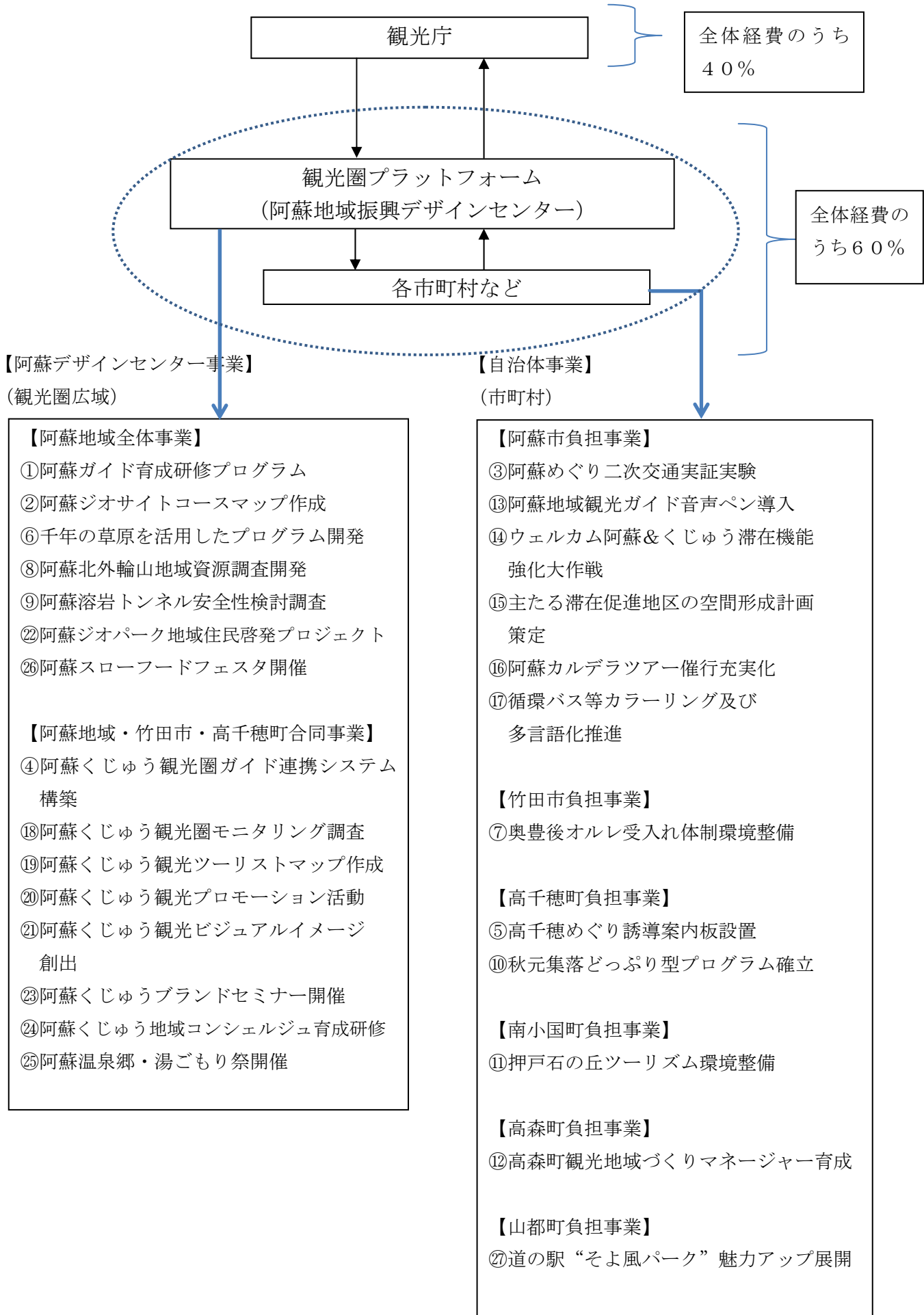
1) 視察対応

国内外の行政や地域づくり団体及び観光関係者らによる阿蘇地域への先進地視察研修を受け入れ、地域づくりにおける先進的な取り組みや概要説明などを行いました。また、実際に商店街や農村集落にも案内し、地元の推進体制や先進的な事例等を紹介しました。

(単位：人)

番号	日時	団体名	参加者数	備考
1	2014/04/28	韓国／全羅南道康津郡	22	
2	2014/05/22	静岡県文化・観光部観光交流局観光政策課	3	
3	2014/06/23	韓国／慶南畜産協会	46	
4	2014/07/01	「海の京都」伊根町実践推進会議	4	
5	2014/07/14	瀬戸内しま博覧会「瀬戸内しまのわ2014」	2	
6	2014/08/06	島根県議会議員連盟「観光振興検討部会」	12	
7	2014/08/27	株式会社NTT データ経営研究所	1	
8	2014/08/28	佐賀県観光戦略グループ	2	
9	2014/09/12	東海大学観光学部	10	
10	2014/09/16	韓国／衿川区地域社会福祉協議体	30	
11	2014/09/16	有限責任監査法人トーマツ	2	
12	2014/10/06	石川県議会	20	
13	2014/10/07	南房総市朝夷商工会	10	
14	2014/10/23	鳥取県庁鳥取力創造課	2	
15	2014/11/04	韓国／世宗市議会	12	
17	2014/11/08	中津川市商工会	12	
18	2014/11/09	一般社団法人そらの郷	17	
19	2014/11/11	北海道伊達市	9	
20	2014/11/19	瑞草区社会福祉協議体	17	
21	2014/12/04	そらち DE いーね	15	
22	2015/02/25	本渡まちづくり協議会	20	
計			268	

観光庁と阿蘇地域振興デザインセンター（各市町村）関係図



収支計算書

平成26年 4月 1日から平成27年 3月31日まで

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
基本財産運用収入	76,325,000	77,603,351	△ 1,278,351
基本財産利息収入	76,325,000	77,603,351	△ 1,278,351
阿蘇大陸販売収入	0	1,000	△ 1,000
阿蘇大陸販売収入	0	1,000	△ 1,000
阿蘇大図鑑販売収入	200,000	30,000	170,000
阿蘇大図鑑販売収入	200,000	30,000	170,000
阿蘇ゆるっと博公式ガイドブック販売	0	292,000	△ 292,000
阿蘇ゆるっと博公式ガイドブック販売	0	292,000	△ 292,000
補助金等収入	23,060,000	21,334,739	1,725,261
国庫補助金収入	23,060,000	21,334,739	1,725,261
負担金収入	17,234,000	15,918,000	1,316,000
負担金収入	17,234,000	15,918,000	1,316,000
雑収入	20,000	22,227	△ 2,227
受取利息収入	0	13,227	△ 13,227
雑収入	20,000	9,000	11,000
事業活動収入計	116,839,000	115,201,317	1,637,683
2. 事業活動支出			
事業費支出	117,668,436	114,563,139	3,105,297
給料手当支出	7,451,782	6,573,972	877,810
職員手当等支出	2,385,865	1,524,734	861,131
福利厚生費支出	1,255,789	1,283,651	△ 27,862
図書研修費支出	2,020,000	2,259,713	△ 239,713
会議費支出	400,000	109,400	290,600
旅費交通費支出	4,780,000	5,412,328	△ 632,328
通信運搬費支出	180,000	0	180,000
消耗品費支出	626,000	120,960	505,040
印刷製本費支出	9,764,141	1,990,810	7,773,331
賃借料支出	1,160,000	2,086,776	△ 926,776
保険料支出	100,000	86,100	13,900
諸謝金支出	2,004,000	337,000	1,667,000
負担金支出	23,850,000	23,906,275	△ 56,275
助成金支出	6,480,000	6,165,314	314,686
委託費支出	54,210,859	62,401,206	△ 8,190,347
雑支出	1,000,000	304,900	695,100
役員会費支出	50,000	40,000	10,000
役員会費支出	50,000	40,000	10,000
理事会費支出	300,000	155,779	144,221
理事会費支出	300,000	155,779	144,221
評議員会費支出	100,000	8,306	91,694
評議員会費支出	100,000	8,306	91,694
顧問等経費支出	300,000	15,320	284,680
顧問等経費支出	300,000	15,320	284,680
管理費支出	15,726,564	12,627,163	3,099,401
給料手当支出	4,946,420	5,218,590	△ 272,170
職員手当等支出	1,334,135	620,982	713,153
福利厚生費支出	1,665,546	1,188,827	476,719
図書研修費支出	36,000	36,000	0
会議費支出	0	62,500	△ 62,500
旅費交通費支出	1,000,000	428,827	571,173
通信運搬費支出	796,000	571,836	224,164
消耗什器備品費支出	550,000	255,420	294,580
消耗品費支出	742,000	509,391	232,609
印刷製本費支出	840,000	927,525	△ 87,525
光熱水料費支出	700,000	579,868	120,132
賃借料支出	736,140	626,612	109,528
諸会費支出	3,000	11,400	△ 8,400
租税公課支出	110,000	72,000	38,000
負担金支出	500,000	294,000	206,000
委託費支出	1,218,000	777,600	440,400
雑支出	549,323	445,785	103,538
事業活動支出計	134,145,000	127,409,707	6,735,293
事業活動収支差額	△ 17,306,000	△ 12,208,390	△ 5,097,610
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
投資活動収入計	0	0	0
2. 投資活動支出			
投資活動支出計	0	0	0
投資活動収支差額	0	0	0
III 財務活動収支の部			
1. 財務活動収入			
財務活動収入計	0	0	0
2. 財務活動支出			
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0
当期収支差額	△ 17,306,000	△ 12,208,390	△ 5,097,610
前期繰越収支差額	70,203,918	70,203,918	0
次期繰越収支差額	52,897,918	57,995,528	△ 5,097,610